

令和3年度第3回 田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 議事要旨

開催日時 令和3年12月1日（水） 10時30分～

場所 田原本町役場3階 301・302 会議室

出席者 田原本町議会議長 植田 昌孝
(敬称略) 田原本町議会総務文教委員会委員長 藤井 誠人
国立大学法人奈良教育大学教育学部教授 根田 克彦
公立大学法人奈良県立大学地域創造学部教授 小松原 尚
田原本町商工会会長 山田 至完
一般社団法人田原本まちづくり観光振興機構理事 服部 誠
株式会社ヨシケイライブラリー営業課長 山岡 洋之
田原本町PTA連合会会長 若林 宏文
株式会社南都銀行田原本支店支店長 秋山 利元
奈良中央信用金庫専務理事 谷野 守弘
奈良県産業振興総合センター所長 大西 勇
社会福祉法人田原本町社会福祉協議会事務局長 藤本 勇樹

事務局 副町長 教育長 町長公室長 総務部長 住民福祉部長 産業建設部長
上下水道部長 教育部長 町長公室・産業建設部参事 産業建設部参事
企画財政課長 企画財政課長補佐 企画財政課政策企画係長

1. あいさつ

(事務局)

令和3年度第3回田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を開催する。
開催にあたり小松原委員長よりご挨拶いただく。

(小松原委員長)

総合戦略推進委員会に出席いただき感謝する。前回の委員会では、地方創生関連事業における令和2年度の効果検証、総合計画後期基本計画・第2期総合戦略骨子案について審議を行った。本日は両計画の素案が議題になる。田原本町の基本計画を実現し、まちを活性化させ人口減少を抑制させるための今後5年間の方向性を位置付ける大切な計画となるため忌憚のない意見を賜りたい。人口問題は関係人口・交流人口・定住人口を総合的に考えながら、まちの活性化を考えていくという大切な計画と考える。よろしくお願ひしたい。

(事務局)

本日の出席委員は12名で、田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会規則第5条第2項に規定している定足数に達しているため、委員会は成立。

委員について、新たにお引き受けいただいた方を紹介。

欠席委員は4名。

－資料の確認－

議事にうつる。議長を小松原委員長にお願いする。

2. 議題

(小松原委員長)

議案第1号、「第4次総合計画後期基本計画及び第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について」事務局から説明を求める。

(事務局)

資料1：田原本町第4次総合計画後期基本計画・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について説明

(小松原委員長)

事務局より説明があった。何か意見、質問はあるか。

(山岡委員)

18ページ施策6「すべての子どもの見守りと支援の推進」と非常に素晴らしい内容である。子どもの虐待事件について、こういった立派な内容が（計画を策定する側である）行政の職員全体の中に落とし込まれ、しっかり理解されているのか。

(住民福祉部長)

児童虐待は、保健師として子どもに接する機会があるため取り組んできた施策の1つである。田原本町においても平成20年頃から要保護児童対策地域協議会を設置し、町の職員も含め、学校・幼稚園・保育園、児童に関わる関係機関の方々と子どもについて話し合いをする機会を設けて取り組んでいる。田原本町の人口は3万人程度だが、長年100人を超える子どもを経過観察している状況である。以前に比べて関係機関との連携は良くなっているが、子どもの貧困など生活環境は

悪化しているところも数多くあるため、関係機関を含め、これからも取り組んでいきたいと思っている。

(山岡委員)

内容の趣旨が違う。(虐待防止等について計画に記載している)町の職員が認識しているかどうかである。

(小松原委員長)

他に意見、質問等はあるか。

(服部委員)

45 ページ施策2「魅力ある田原本駅周辺のまちづくり」とある。駅西側に商業ビルが建つが、東側はどうなるのか。田原本駅北側の踏切からすぐの2店舗に空きがあり、マンションになるという噂話が出ている。西側の整備は進んでいるが、東側も同時に進めていかないと、マンションが出来てしまったら開発の目途が立たなくなる。駅からすぐの場所に空き店舗が数軒並んでいては、田原本に活気がないような印象を与える。そこはどのように考えているのか。

(産業建設部長)

田原本町駅の西側で開発を進め、来年から解体して施工に入るという段階である。東側のまちづくりについては、田原本駅周辺で地籍が混乱しているため法務局で地籍を整理する事業を進めている状況である。北側については具体的に詳しい内容は把握していない。周辺の立地環境からすると、東側の自治会をはじめ様々な方の日頃からの機運がなければまちづくりを進めることができないので、自治会を交えて将来に向けてどのように進めていくべきか、自治会と一緒に考えていきたい。

(服部委員)

東側も忘れずに開発に取り組んでほしい。マンションなどが建ってしまうと計画などできない。当初の田原本町の計画では、先に東側の開発を行って西側に取り掛かるものだったが、東側に反対者が出たため西側を先に行った。その経緯は仕方ないが、田原本駅に降りた時に、来た人に残念な印象を与えることのないような計画を進めてほしい。

(小松原委員長)

他に意見、質問はないか。

(山田委員)

田原本の都市計画審議会にも属しているが、以前、田原本町には道路計画があったが、都市計画で廃止となった。そういうものも含めた都市計画、まちづくり戦略を皆に示さないといけない。道路計画をなくしているのにまちづくりを進めるのは不自然である。南北に道路を通す道路計画を廃止したのに都市計画しようとするのは矛盾している。行政は縦割りではなく、こういうところでも議論してまちづくりをしないとイケない。

(産業建設部長)

駅周辺の都市計画道路はかなり前の昭和に計画されたものである。町の中心部に3路線から4路線が入った計画であった。現状からすると、駅周辺の立地状況を踏まえ、道路整備にふさわしくないという位置付けの道路になっていたため、一旦廃止した。駅周辺については、将来的なことや道路の位置関係、駅周辺が居住誘導区域・住むところの中心部であることも含め、総合的に道路整備も含めて住むところのまちづくりを進めていきたい。計画については慎重に住民も交えたうえで進めていきたい。

(山田委員)

計画があったのに何も手を付けていなかったのが残念。計画があったならば、少しでも進展があると思っていた。全く手つかずのまま廃止ということは何もしていないということだ。廃止計画を見て、このような計画があったのかとなる。町も計画があるなら実行してほしい。

今でも奈良県はビルの高さ制限などがある。大阪も大阪城より高い建物を建ててはいけないという規制があったが、今は大阪城周辺に高い建物が数多くある。ここは盆地の中央に当たるため、高さ300メートルくらいの建物を建てたら田原本町ももっと良くなるのではないか。県に働きかけ、高さ規制を外す努力をしなくてはならない。規制にこだわらずにどんどん規制を取っ払ってほしい。

(産業建設部長)

都市計画道路の旧町周辺については廃止されたが、町役場北側の前面道路や青垣生涯学習センター周辺などの郊外であれば整備を行っている。まちの中心部については状況からして、そぐわないということで廃止した。

(小松原委員長)

まちの問題と道の問題は非常に難しい。計画については実効性をもつことが重要であるとご指摘である。

(根田委員)

山田委員と一緒に都市計画審議会に参加している。今回の都市計画ではいくつかの都市計画道路を廃止した。手続きとしては県の指導の下、これ以上できそうにないものはやめる、そして住民の反対もなかったため都市計画の手続きとして瑕疵がなかったということで審議会として認めている。

問題としては、こちらの総合計画は1ランク上のまち全体の総合的な計画を立てることになるわけなので、先程の道路のことや駅東側のことも、道路を狭いままにするなら市街地の東側はどうすればいいのか、もっと総合的なことを本来こちらに書くべきである。それが何も具体化していないため抽象的な書き方にならざるをえない。町の方で考えなければならないこともあるが、どちらかといえば、まちの東側の商工業の方々が中心となってやっていかないとできないのではないのか。今のところ何もないのであればこれでしょうかと思う。

先程スーパーシティの説明があったが、荒井知事が大和平野中央プロジェクトを実施すると新聞にあった。田原本町も関わっていて、国体の施設を造る案も出ていると聞いている。これについて、総合計画にはそれほど出していないことになるのか。どのような形でやっていくのか。

(産業建設部参事)

大和平野中央プロジェクトにおいて、この案(44ページ)のスポーツ施設を核としたウェルネスタウンの形成として、青垣生涯学習センターの北側の約6ヘクタールの土地を整備していくために、県とタイアップして進めている。これを建てることによって具体的に施策に反映させるというのとは次元が違う。10年後を見据えた国体施設の整備をしながら、健康増進を図るような施設を模索していきたい。町、県においても重要性が高いことから、ある程度本文で反映させたという背景があったと考えている。

(小松原委員長)

質問の件に関していかがか。

(根田委員)

文章でいうと、ヘルスケアプロジェクト全体としてどう反映していくのかを聞きたい。

(町長公室長)

スーパーシティ構想については、田原本町で国体関連の何らかのスポーツ施設が造られることが決定しているだけで、スーパーシティ構想の具体的な内容は、今

後、県との協議の中で決まっていくものと考えている。基本計画の中で修正をしていくのか、実施計画の中でそれを反映していくのかは今後検討していきたい。

(根田委員)

この件は今後に期待したい。それを入れるのは、住環境やスポーツなど別々に作られている段階でそれを当てはめるのは難しいと思うが、田原本町全体をどうしていくかという全体構造、さらに駅東側をどうするのかも含めて総合的な本当の総合計画を考えていただきたいと都市計画の観点から考えている。

(小松原委員長)

都市計画の観点から問題提起ということで、しっかりと受け止め、今後の計画の具体化についてお願いしたい。

(若林委員)

最近、経営コンサルタントの方と話をする機会があり、田原本町で導入できないかと思うアイデアをもらった。農業を発展させるための田原本町のブランドとしては味間いも以外に何も無い。大和野菜は500年の歴史があり、田原本の地で育ったなどの約束事があるようだ。しかし、そこに注目していても新しい産物は生まれてこない。北海道の帯広ではマンゴーを作っていて1個5万円で売れるそうだ。田原本町でも導入できないかと思う。

また、耕作放棄地が増えていると思う。知人が借りていた畑を返そうとすると、世話ができないため一切のことを任せるから土地の世話してくれと高齢者が頼むのだそう。そのようなところが田原本町にもあると思う。そういった土地を集約できたら農業の大規模化ができ、効率が良くなると思った。

さらに行政に関しても効率化を図るために、経営コンサルタントの方に田原本町役場に入ってもらえるのはどうだろうか。田原本町の財源からすれば、1人の専門家に頼んでも負担にはならないと思う。無駄だと思う部分を削減して、たくさん計画がある中で切り捨てる部分も出てくると思う。また、普段から職員の間で無駄な業務はないか意見交換などはされているのか。

(小松原委員長)

素案59ページに関連した農業振興との関わり、仕事の進め方・対応の仕方・職員の意識改革の2つの面からご質問をいただいた。

(産業建設部長)

田原本町のブランド野菜は味間いものみである。昔ながらの作物ということで、伝統野菜を新しく見出すというのは厳しい。昔から田原本町はイチゴの生産地で

もある。昔から作っている農家の数は減少しているが、現在、奈良県とタイアップして桜井市の農業大学校から生徒を田原本町で就農してもらうような働きかけを行っている。新規就農者の方にどういった土地を斡旋するのかというと、耕作放棄地である。昔、耕作していた比較的耕作しやすいところを斡旋できるよう、地元の方や農家代表の方と話して、所有者の方に向けて土地の交渉も率先して行っている。新しい方に入っていただける体制を作っている。

耕作放棄地は多くあるが、所有者の高齢化対策として農地バンク制度を設けている。そこに登録していただき、マッチングして担い手の方を探している。しかし担い手が見つからない状況もあるため、当面は周辺の方と連携を取りながら進めていきたい。

耕作放棄地を集約化して大規模化できないかということだが、現在、まとまった土地で耕作放棄地がなく、集落の中で所々に散らばっている状態である。所有者もばらばらなので集約化は困難。それよりは1つでも解消する方向で考えていきたい。

(小松原委員長)

もう1点についても事務局よりコメントがあればお願いしたい。素案でいうと68ページからのところだと思う。

(事務局)

行政の効率化について、現在の田原本町では行政改革大綱というものを策定し、5年計画で今、改定時期にあたるが、それに基づいて行政の効率化を行っている。外部の委員を交えて効果検証等も取り組んでいる。

経営コンサルタント導入の提案があったが、そういった視点も今後は検討を進めたい。こういったことは職員でもできないかという意見もあったが、職員提案制度という制度を実施している。色々なアイデアを出し、それを採用するか検討して行政のサービスの向上効果につなげている状況である。

(若林委員)

自前で行うのは限界があるため、専門家に任せる部分があっても良いと思う。

また、業務の効率化のためにICTの活用も進めていくべきだと思う。先日、町議会議員の開票の映像を見ていたが、8時に投票が終わり、結果が出るまで2時間程かかっていた。もし、ネットで投票でき、投票締め切り5～10分程度で結果を出せるような機械に任せれば、人間が行うよりはるかに速いスピードで処理してくれる。業務の中で取り入れていけば、人手が省け、余計な出費も削減できるし、他にも財源を回せるようになる。効率化を図るためにロボットの活用は導入してもらいたいと思う。

(総務部長)

本町においてもデジタル元年ということで、限られた人員で細やかな住民サービスに努めてきた。具体例でいうと、家からでも申請できるオンライン申請をやっている。また、町の公式ラインの活用により、AIチャットボットやゴミカレンダーの配信のほか、行政情報のカテゴリを選んでいただき、防犯防災等の希望する情報を住民に発信している。またロボットの活用については、簡単な作業を繰り返しできるRPAの導入により、コロナワクチンの接種情報等の入力時間を格段に短縮できた。河川の水位が上がってきた場合、水位監視システムでどのような状況かタイムリーに分かるようになってきている。今後もデジタル化に取り組んでいきたい。

(山岡委員)

補足になるが、弊社もふるさと納税で本町にお世話になっている。以前は町職員とのやり取りだったが、おそらく今は外部の方も入っていてレベルアップしたと感じている。効率化、効果的になり、お礼申し上げる。

質問だが、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の方が総合戦略推進委員会としての「外部」にあたり、アドバイスをしているのか。

(事務局)

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所様には総合戦略・総合計画の策定を支援いただく立場で入っていただき、色々な情報提供等を受けている。

(小松原委員長)

その他、意見、質問がないようなので、続いて、議案第2号、「パブリックコメントの実施について」事務局から説明を求める。

(事務局)

資料2：パブリックコメントの実施について説明

(小松原委員長)

事務局より説明いただいた。何か意見、質問はないか。

(植田委員)

パブリックコメントの対象者の人数は分かるか。回答目標人数や率はどう考えているのか。

(事務局)

対象者は町内在住及び在勤・在学の方とし、町民3万人強で在勤は1万人程度と思われる。目標数値は具体的に設定していないが、例年の各種計画からすると数件から10件程度の意見をいただいている状況である。

(植田委員)

返ってくる件数は10件ということか。

(事務局)

パブリックコメントであるため、この案をホームページや本町窓口で閲覧していただき、意見があった方に意見書を出していただく形になっている。具体的にアンケートを取るのではなく、意見がある方に出していただくため、回答は数件から10件と思われる。

(植田委員)

パブリックコメントの回答はその程度なのか。もう少し町民の皆さんの意見が反映されるものと思い、人数は多いかと思っていた。10件程度では町民の意見を反映しているとは言えないのではないか。そこを増やす努力はするべきである。

(小松原委員長)

聞き方の問題もある。全体を出すものもあれば、今日の意見から絞り込んでどうか問う方法もある。コメントの聴取の仕方の工夫はどうかということである。

(町長公室長)

パブリックコメントは各種計画策定にあたり実施している。町民参加いただくうえでの大きな手法の1つになる。我々が作成した案を見て、なるべく意見をいただけるよう周知に努めたい。議会でもその旨報告する予定をしている。

3. 次回開催日程

(小松原委員長)

次回の開催日程について事務局より説明を求める。

(事務局)

次回開催日程について説明。

(小松原委員長)

これですべての議事を終了した。進行を事務局に返す。

(事務局)

小松原委員長、議事進行に感謝する。

これをもって令和3年度第3回田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を終了する。

4. 閉会